

# 觀察のさせ方(一)

東京女高師附小主事 堀

七 藏

一八

## 一、はしがき

昭和七年七月下旬文部省主催保育に關する夏季講習會が東京女子高等師範學校に於て開催せられたとき、一講師として講演した事項を主とし茲に稿を改めて讀者の參考に供することにいたします。雜誌「幼兒の教育」の編輯主任に對し再三固辭したのであるが、強いての注文であるため止むなく筆をとることにいたしました。従つて講習會に於ける講演その儘ではなく、新に原稿を書いて愚見を發表するものであります。この點豫め御諒解下さることを希望いたします。

## 二、統覺の發達

先づ觀察のさせ方を説明するに當り、茲に統覺の發達につき一應諸君の御諒解を願つて置かねばなりません。兒童心理學者は統覺の發達につき次の如き階段があると申します。吾人人類は感覺器の働きによりて知覺するものであるが、單純なる知覺のみの時代は至極幼稚な時代で、時間でも空間でもいろ／＼の知覺が同時に行はれるものであります。單純なる知覺でなく、いろ／＼の知覺が同時に總合的に行はれていろ／＼の觀察をなすもので、このとき統覺といふのであります。それで吾人の事物を觀察するときには常に統覺作用が行はれるものであります。この統覺が年齢によつて發達の程度に相違があることは明白であります。その第一が個物期で、七歳以下の兒童の統覺はこれであり、繪畫中の孤立した物又は人物のみを觀察し、或は實

際孤立せざるものも觀察の際分離して個々別々に統覺するものであります。この時期の幼兒は幼稚園時代から尋常小學校第一學年時代のもので、専らこの個物期の統覺をなすのであります。この時代の兒童は事物を個々別々に分離して觀察するものであることを記憶せねばなりません。

第二は活動期であります。兒童が八歳頃に至れば、人物の活動、事物の作用に着眼し、多くの事柄中よりこれ等を選擇して觀察するものであります。動いてゐる人や動物によく注意し、活動する部分や變化する事物に注意をむけてよく觀察するのがこの時代の特色であります、小學校の二三年頃の兒童は専らこの時期であるといふのであります。活動期にある兒童は専ら事物の活動方面をよく觀察するものであるが、更に進んで

第三の關係期に入ると、事物の關係に留意して觀察するやうになります。兒童が十歳頃に達すれば事物の時間、空間及因果の關係に留意し、觀察物を總括的に把握せんとするものであります。この時期にならぬと眞に理科を學習することが出来ないものであるから、小學校で第四學年より

理科を課することに規定してゐるのは相當な理由があつてのことです。幼稚園では勿論理科を課するのではなく、單に觀察、しかも所謂直觀をなさしめることを主とするものであることをよく承知せねばなりません。十歳頃にならぬと事物の時間的關係、空間的關係を明白に觀察することが出来ないものであります。殊に事物の因果關係になるとこの第三期の關係期に達しないと充分把握することが出来ないものであることに着眼せねばなりません。それで六ヶしい理窟を幼稚園の保育項目「觀察」に於て説明するなどには以ての外であります。幼稚園令施行規則第一條に於て特に

幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムベク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス

とある點を熟讀玩味せねばなりません。まだ個物期にある幼兒を保育するに關係期にある兒童でなくば會得し難き事項を授けるが如きことは以ての外でありませう。況んや第四の性質期にある兒童でなくば明白でないやうな取扱を

してはなりません。兒童が十三歳頃に至れば事物の性質+  
分析して觀察するに至るもので、この時代を性質期といふ  
のであります。性質期に達して眞に理科を學習し得るに至  
ることは勿論であります。

第五が情趣期であります。青年に至れば新なる感情が湧  
起し、事物の情趣的方面に留意するものであります。

この統覺の發達に於て、滿二歳より幼稚園小學校一年位  
までが専ら個物期であります。小學校二年より四年までは  
主として活動期、五年より高等科第一學年までは關係期及  
性質期であり高等第二學年又は中學二三年頃より情趣期  
に入るものであります。

### 三、發達の實例

以上統覽の發達を見るために、私は東京女子高等師範學  
校附屬小學校兒童について検査した結果を具體的に朗讀し  
て參考に供することにいたします。この調査は尋一より高  
等科第二學年までの男女兒各々二人、一學年四人につき同  
一の繪を一分間注視せしめた後、その繪をとり除き今觀察

した結果を文章を以て表出せしめたのであります。注意し  
てこの結果を検すると各學年四人共、それ〴〵異なるは勿論  
であるが兒童の發達による相違、更に男女による特色等い  
ろ〴〵誠に面白い點があります。しかし茲には時間の節約  
上各學年男女二人づゝの文章を列舉してその比較對照をな  
す資料とすることにいたします。

先づこの繪であるが、これを一分間熟視せしめて後記述  
せしめた文章を尋一から列舉いたします。どんなに變化  
するか、注意して比較せられることが肝要であります。

一年 女 内 村

ブタガナニカタベテイマス。オヂヨウサンガ フタリシ  
テミテイマス。ウチガアリマス、シロイクモガアリマス。

一年 男 高 間

ブタガエサヲタベテキマス。コドモガミテキマス。オト  
ナガブタニエサヲヤツテイマス。

第一學年の兒童でも個物期でなく、多少關係的に統覺し  
てゐることが分りませう。

二年 女 五十嵐

ぶたが三びきゐます。

おちさんがぶたにおからみたいなのをやつてゐます。  
ぶたのあしのところになつばが五六まいおいてあります。  
へいのおとから子どもが二人のぞいゐます。

むかうの山のそばにあをあをとしたくもが出てゐます。

二年 男 樺 島

へいの中にぶたが三びきゐます。ぶたのおちさんがゑさをやつてゐます。

そらがうつくしいです。子どもが二人ゐます。そのそばにこやがあります。

二年になると餘程活動期に入つてゐることがよく分りませう。空間的な關係をつけて統覺してゐることが明白であります。

三年 男 海 老 原

ぶたが三匹ゐます。おちさんがゑさをやりにきました。  
男の子と女の子がこれを見にきました。お天きのよい日です。ぶたがおちさんのそばによつてきました。

三年 女 川 崎

ある日、お父様がぶたにゑさをやつてゐると、男の子と女の子が見てゐます。ぶたは足の所になつばがあるのにふんでたべてゐません。ぶたは三匹ゐます。黒とあかみたいのがまぎつてゐます。ふつうのぶたとちがひます。

かく三年の兒童は活動期に明白に入つて居り、しかも著しく關係や性質に注意して統覺してゐることが分りませう。

四年 男 德 富

あるまきはにぶたをかつてゐて、今ちやうどおひるなので、ぶたにたべ物もち主がやつてゐます。そのよこに子供が一しんにたべ物をやつてゐるのを見てゐます。

四年 女 海 田

ぶたが三匹ゑさをたべてゐて、ぶたのしつばはまるまつてゐます。ぶたの足元には葉が五六枚落ちてゐて、そのまはりはおかき根がしてあつて、かきねの外からぶた使がゑさをやつてゐます。かきねの外に二人の子供が通つてゐます。ぶたごやの前にははれた家が一軒たつてゐて、空には白い雲がかつこうよくかゝつてゐます。

まるまつていた。

五年女 廣 瀬

かこひの中に黒とき色のまだらのぶたが二匹、とき色のぶたが一匹居ります。三匹のぶたとも皆しつぽをまいてゐます。後足の所には青い葉が五六枚落ちて居ります。西洋人の二十歳の小父さんがバケツに白いえさを持つて来てぶたにやつて居ります。白いえさは何でしやう。おいしいのでしやうか。

ぶたどもはおいしさうに食べて居ります。その様子を見てゐるのは白いぼう子に黒いすじの入つたぼうしをかぶつてゐる十さい位の西洋人の男の子と白いぼう子に赤いすじの入つてゐるぼう子をかぶつた八歳位の西洋人の女の子です。二人の後には屋根は茶色のかはらで出来てゐる家があります。その家は壁が少し落ちてゐます。家のよこには青々とした木が生へてゐます。何の木でせう。空は白い雲が出てゐます。けれども雲と雲の間は青く美しく見えます。遠くの方はうすい緑でおぼはれてとても美しいです。

五年になると大人もはだしといふ位に立派に観察してゐ

第四學年になると關係的に統覺してゐるのは勿論、性質をも相當によく注意して觀察してゐることが明白でありませう。「これはれた家」「白い雲がかつこうよく」などはその表れであります。

五年男 近 藤

いなかのまづしい一けんの家のうらで、きで作つたさくがあり、さくの中に又えさを入れる木の箱の様なものがある。雲のすきから青空が見えて、向ふにおかがありその下のところ、つまりいなかの家の横に川があつた。そのいなかの家はすいぶん古いようだがはげて中のれんが見えてゐた。その家の主人だらう。ぶた小屋にあるえさ箱へバケツでえさを入れてゐて、そのえさを入れた人は赤いきものをきてゐた、そのそばで男の子と女の子が豚を見てゐて、男の子は赤い着物を着て、女の子は黄色の着物をきてゐた。

いなかの家の横、川のそばに高い木がありました。かつてある豚は黒くだんだらになつてゐて、しつぽがみぢかく

ます。そしてところ／＼情趣期に入りかけてゐる點があります。

六年男 六道

豚小屋の所の情景である。

豚が二三匹居る。その豚の持主らしい人が豚に餌をやつてゐる。いかにも重さうに餌の入つてゐるバケツを持上げて豚小屋の隅の方へぶちまけてゐる。

豚が早速よつて來た。皆頭を下げてそれを食べてゐる。いかにもうまさうだ。丸いころ／＼に肥つた頭を一つところへあつめてうまさうに食べてゐる。

向ふ方には男と女の子が面白さうに目を大きく見張つて見てゐる。二人ともとても、ゆくわいさうだ。前にある家はれんぐわがところ／＼はげてきたない。豚はえんりよなしにがつ／＼食つてゐる。いかにもどかだ、太つたまゝ／＼とした足は下にある菜つ葉をふみつけてゐるし、尻尾はくる／＼とまるめたりのばしたりしてゐる。

ほんとうにのどかな田舎の風景だ。

六年女 永井

此處は豚小屋である。柵の向ふから若い男が豚に何かやつてゐる。赤いシャツを着て茶色のズボンをはいたいでたちは如何にも元氣さうに見える。

其の左手には女の子と男の子が二人立つて一心に豚を眺めてゐる。二人とも兄妹らしい。女の子は黄色い可愛い洋服を着てお兄さんらしい人は赤い洋服を着てゐる。仲が良ささうな兄妹だ。

豚小屋には豚が三匹ゐて男の人のくれる食物をしきりにあさつてゐるやうだ。可愛い顔、可愛い耳、可愛いクルツとまいた輪のやうな尻尾、私は豚がすきである。一等可愛いのは顔で、愛嬌味たつぷりである。所々が汚れてゐて、豚そのものゝ感じを起させる。

青空が白雲の切れ目から顔を出してのぞいてゐる晴々とした氣持のよい日だ。

豚の食ひちらしたらしい緑色の菜つ葉が三つ四つころがつてゐる。「兄さん可愛い豚ね」とでも言つてゐる様に見える。妹は帽子のかけから金髪をちら／＼と見せてゐる。兄さんはそれに答へるかの様な顔をしてまた豚を見續けて

ゐる。

六年になれば正に情趣期に入つてゐて、大人も及ばぬ位によく觀察せられてゐることが明白に表現せられてゐるではありませんか。

高一女 藤 田

廣い牧場らしくて空はあくまですみきつてゐて、白雲がいろ／＼とび遊んでゐる。その青い空の下では木でかこつてある中に豚が三匹細い尾を丸めてゐる。その豚に赤いシャツを着たおぢさんが相當に深いバケツをさかさにして食物をやつてゐます。そのおぢさんの右側には赤い洋服を着て白い帽子をかぶつた子供と黄色い洋服を着て白い帽子をかぶつた子供が仲よく豚がえを食へる様子を見て居ります。

豚のゐるちよつと後にはオヤツにして下さいとばかりに青々とした菜が勢よく葉を廣げて豚の食へるのを歓迎して居ります。

空では此の光景を見て笑つて居ります。

高一女 阿 部

空は青く晴れて白雲が浮いて居ります。廣い原に家が立つて居ります。豚が三匹居て其の豚に男の大人が餌をやつて居ります。豚はそれをたべてゐます。垣根があります。その向に少年と少女がゐます。其の餌をやつた男の人も垣の外に居ります。

豚のゐるそばには青い草が少し生えて居ります。家は茶色で二棟になつて居ります。少年も少女も帽子をかぶつて居ります。少女は赤い洋服を着て居りました。少年は水色の洋服を着て居りました。少年はお兄さんです。

高等は補缺入學した兒童でありますから綴方が優良ではありませんから六年の方よりも、よい譯ではありませう。しかし左程進歩してゐるものでないことが分りませう。

高二女 林

或家にぶたがかつてあつてその家の主人らしい人がえさをやつてゐる。その近所の子供がそのえさをやるのをまじめに見てゐる。一人は女の子で一人は男の子だ。二人とも非常に仲がよささうだ。この家は非常に静かな家で、まは

りは野原ですぐそばに川が流れてゐて、家の後に數本の木が生えてゐるやうだ。はるか向ふに山が連つて見える。この日は大さうお天氣がよく皆樂しくくらししてゐるやうだ。ぶたも家の主人に大そうかはいがられて、えさなどくれる時はとても主人のそばへよつて来る。ぶたはえさをもらったものですから喜んでたべてゐる。

高二女 佐々木

茶色の柵のまはりも底も何もかも茶色の物の中に豚が二匹ゐます。その豚は體の所にへんな色の跡があります。豚の入つてゐる柵のそばに子供が二人と大人の男の人が一人居ます。子供の左側にゐる子は黄色いお洋服を着て白い所に赤いリボンがついてゐるお帽子を被つて居ります。その子のすぐ右隣に眞赤な可愛いお洋服を着た子が白い地の帽子に黒いほそいリボンのついてゐる帽子を被つてゐます。

二人は女の子の様です。二人共豚の入つてゐる柵の中をのぞき込むやうにして少し柵の上に乗つて見て居ります。二人の子供のすぐそば(右隣)にはやはり白い地に黒いリボンのついた男の大人の人がバケツの様な物の中に何か入れて

豚にやつて居ります。その柵の向ふには家が建つてゐて、家の屋根のすぐ下には變な色のものにおほはれてゐて見えます。家のすぐ右側に緑色の木が立つて居ます。空は水色に晴れた所に、所々白い雲が浮いて居ます。のどかな日です。

x x x

以上の尋常小學第一學年から高等科第二學年までの發表を比較して見ると個人によりて異なることは勿論であります。が個物期から活動期に進み更に關係期性質期に入り最後には情趣期となることが明白に分りませう。尙ほ他に三種の繪について同様にして發表させたのであります。それを各學年一點宛列舉することにいたしませう。

#### 四、統覺發達の實例

この繪は米國の小學校讀本用の挿繪であります。朝になつたので母親がその子を起すところでありますが兒童によつてこの繪の觀察が著しく異なる點が面白いのであります。簡單な繪でありますので兒童がその境遇經驗からして同一



の繪もその意味が著しく異つて統覺せられることが明白に分るので誠に面白いのであります。

一年男　　イヒモト

アカンボガベツトデネテイマス。オネイサンガマドオアケテイマス。マドカラオヒサマガヒカツテイマス。

二年女　　小宮山

朝日が出てゐます。

かわいいあかちやんがすやすやとねむつてゐます。

ひだりにお母さんがまどをあけてゐます。

三年女　　菊　　地

まだにお日様がきらきらひかつてゐます。かわいいおぢよちやんがベツトでねてゐます。お母様が子どもをおこそうとしてゐるところです。

以上の三人共簡単な繪でありますから大體一致した觀察をなし著者の豫定した意味に統覺してゐます。ところが四年以上になるといろいろの現像を以て統覺の結果が複雑してゐるのが特に著しく現はれてゐます

四年女　　蛭　　原

朝になつてお母様がお窓のカーテンをあけてゐます。日はきら／＼と氣持よく照りかゞやいて、いかにも春らしい日の光、風も吹かず、雲のかけらさへない日本晴の氣持のよい大空です。

おぢようさんはその氣持のよいお窓の下で、キラ／＼と照る太陽に照らされながら氣持よさうにベツトの上でねむつてゐます。きつときれないなゆめでも見てゐるのでせう。

五年男　　中　　島

西洋人の子供がベツトの上にねてゐる。子供は手を顔の下にして横向きにねてゐる。子供のかけてゐるふとんは花もようがついてゐる。

その母のやうな人がカーテンを開いてゐる。その窓から太陽がさしこんでゐる。今はきつと朝七時頃であらう。その母らしい人のふくは水色のたてじまのもようであり。くつはかゞとの高いくつである。

六年女　　西　　脇

西洋館らしい部屋にベツトが置いてあつて可愛らしい子供が寝てゐます。そのベツトの後には水色のエブロンを着

たお母さんらしい人が窓にある黄色のカーテンを引いてゐます。窓の外にはお日様が照つてゐます。大てい朝でせう。そして子供に「もうお日様が出ましたよ。早くお起きなさい」とやさしく言つてゐるやうです。それでも可愛らしい子供はまだきつと楽しい夢からさめないのせう。目があいてゐません。子供の寝てゐるふとんは赤い花の模様で大變可愛らしいです。この可愛らしい子供もやさしい日が部屋の中にさしこんで來たらきつと目がさめるでせう。

× × ×

このやうに五六年になれば全く情趣期に入つてゐることが明白であり、時間空間の關係も明白にまた性質も十分統覺出來てゐるのであります。更に高等科になつても大した變化がないのであります。

高 一 女 新 井

子供は今夢路をたどつてゐる。外は朝日がきら／＼と輝いてゐる。お母様が朝飯のお仕度をなされて此の子供を呼び來たのらしい。お母様は洋服を着て靴をはいてゐらつしやる。子供はベツトに體を埋づめて横を向いてスヤ／＼

と寢息をかいて寝てゐる。

カーテンの蔭からそよ風が吹いて子供のゑりに當る。

高 二 女 須 加

部屋の右の方に窓がある。お日様がにっこり笑つてゐるやうに見える。窓の下には可愛いらしい子供がまだベツトの上でねむつてゐる。おかあ様が

「もう起きなさい。お日様が空高くのぼつて居ますよ」とカーテンをあけた。朝のやはらかい日光が部屋一ぱいにさし込んだ。お母さんは水色の地に白いたてのある洋服を着てゐて背の高いやさしいお母さんらしい。子供は此方の方を向いてねてゐる。顔つきはまるで天使のやうに美しい。又どこことなくむじやきさがあらはれてゐる。私は一目見て子供もお母さんも好きになつた。